

第7週(2月9日～2月15日)トピックス: <インフルエンザ>

京都市の第7週のインフルエンザの定点当たり報告数は、43.20(前週40.86)、全国は、41.44(前週43.35)と、ともに警報レベルの開始基準値である「30」を超過しています。

今シーズン(2025/2026シーズン)の前週までの本市の状況をみると、流行期入りの目安である定点当たり報告数「1.0」を超過してシーズン入りした後、例年に比べ早い時期から報告数が増加し、第46週(11月10日～16日)時点で警報レベルの開始基準値である「30」を超え「40.26」となりました。その後、第47週(11月17日～23日)にピークを迎え、以降減少していましたが、2026年第2週(2026年1月5日～11日)から再び増加に転じ、第6週(2月2日～8日)には再び警報開始基準値を超える異例の流行状況となっており、今後の発生動向に注意が必要です(図1)。

今シーズンのこれまでの全国のウイルス型別検出割合を前シーズンと比較すると、前シーズンはAH1pdm09型が多く、シーズン後半にややB型が増加しました。今シーズンは昨年末まではAH3型がほとんどでしたが、現在、特に2026年2月ではB型が約9割と、型の入れ替わりによる再流行となっています(図2)。

インフルエンザの症状は、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて、のどの痛み、鼻汁、せきなどの症状も見られ、小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している人では肺炎を併発する等、重症化することがあります。上記のとおり、ウイルスに複数の型があるため、同じシーズン中に複数回感染することもあります。

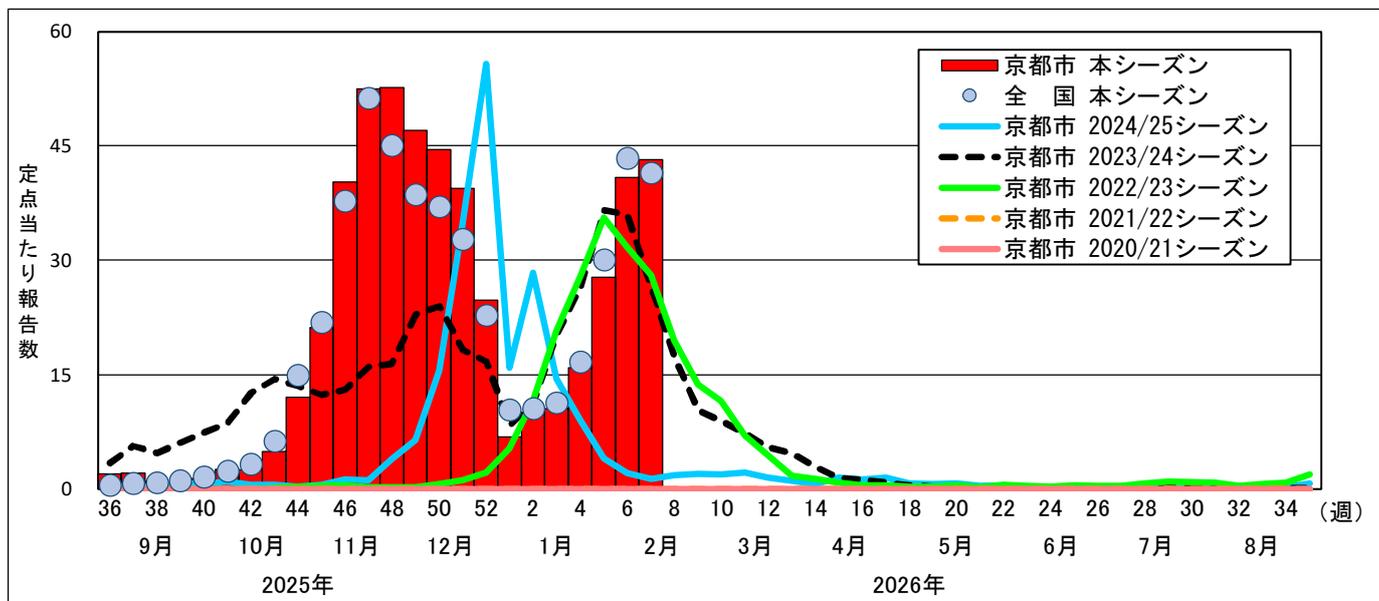
感染防止のために手洗いや咳エチケットの励行、免疫力向上のためにバランスの取れた食事や十分な睡眠などを心掛けましょう。

インフルエンザのさらに詳しい状況については下記URLからホームページをご確認ください。

○インフルエンザ発生状況(京都市情報館)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

(図1)京都市及び全国のインフルエンザ定点当たり報告数の推移(2025/2026シーズン)



(図2)インフルエンザウイルス型別検出割合: 全国

